もし、空を飛べないのなら
海の中を飛べばいい。
みんなの友だち
悩み疲れのペンギンが気付いた自分の可能性…。
いじけ、いじめ、そして友情。
ペンギン、カモメ、カラス、海亀＆神様が
おりなす生きるチカラの物語。

☆あらすじ

自分のことをペンギンと言わせられないうちは、カモメたちが、自由に飛んでいるのを見て、うらやましく思います。どうにかして空を飛ぼうとするブウを見て、カモメたちは、「そんなもっちりとした羽で飛べるわけない」「ふとっちょだし、足短いの」とからかいます。クラスのクロは、応援するのですが、経験のないとは思いますが、何度も挑戦して、手っ取り早く飛べるように努力します。ブウはついついあてられないと飛んでいません。

ブウは、同じ鳥の仲間なにして飛べないのかと、思い悩み続ける出ます。そこで海亀が来て、泣いているブウに鉄棒を付けます。海亀は、ブウがペンギンであり、空を飛べない事を教えます。ブウは、同じ鳥なのにカモメは飛べる、ブノベルは飛べないなんて、不公平だと申します。海亀は、カモメ、カラス、ペンギン…それぞれ出来ることや出来ないことがありそれを比べてはいけないと諦めます。ブウは、どうしてペンギンなんに生まれれたのかと、海亀に聞きますが、神様でさえも聞きつみと去ってしまいます。

ブウは、また飛ぶ練習を始めます。そこでカモメたちがやって来た、飛べないブウをいじめます。ブウに助けられたブウは、自分だって飛んでみたい！と高い崖から再度飛ぶ練習を始めます。それに落ちたブウは、沈むながら光に包まれ、浮いている自分が気づきます。そこで神様が現れ、ペンギンは、海の中を飛び回る事を教えます。泳ぎ回るブウはうれしくぬれてしまい、心配していたクロは、ブウに力を援助します。

ある日の夜、カモメのミミは、キキが帰って来ないと心配に、ブウに言います。ブウは、探しに行くと大きな波がうねる海の中へ飛び込みます。ブウはやっとの事でキキを捜し出す。キキは、嵐が続いて食べ物が採れず、みんな何も食べていないので、食べ物を捜しに嵐の海を泳いでいたブウに話します。キキは、嵐の中で飛べるブウがうらやましくなります。助け出したキキをミミの元に連れて行くと、カモメたちは、ロータリブウの事を、話すのです。

今まで、いじめていたカモメたちは、ブウに謝ります。ブウは、カモメたちのために、食べ物を探ってくると海の広い海を飛び込みます。食べ物を探って来ももらったキキは、ブウを笑ったり、いじめていたのに何で助けくれたの？と問います。ブウは、友だちだから…同じ鳥の仲間だからさ！と言うのです。

挿入歌 手のひらを太陽に
作詞 やなせたかし
作曲 いすみたく
合唱 杉並区立桜井第4小学校
武内孝子先生と4年2組のみなさん

●お問い合わせ・お申し込み

(株)オプチカル 販売課 教育映像係
香川県高松市屋島西町2484-8
TEL 087-841-1100
FAX 087-841-1101